

日本食糧新聞

The Japan Food Journal

日本食糧新聞社

東京都中央区八重洲1-9-9建物ビル

〒103-0028 電話03(3271)4815(代)

FAX03(3271)4818

編集・広告・購読

東京都港区西新橋2-21-2

第一南桜ビル(〒105-0003)

☎03(3432)5700(大代表)

編集・広告FAX03(3432)4888

購読 FAX03(3578)9432

ホームページアドレス

<http://www.nissyoku.co.jp/>

購読料 半年32,424円

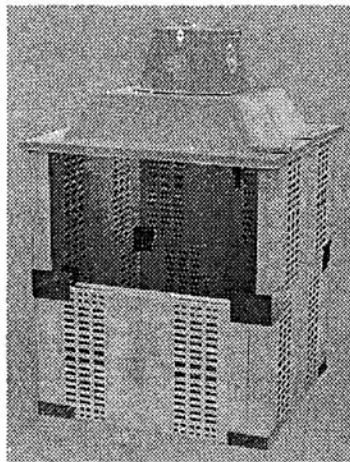
(前金制 税込)

離島などから引き合い

ヨロズヤ 土壌菌利用の生ゴミ処理

(株)ヨロズヤ(静岡県三島市、055・972・7777)は完全自然循環型の生ゴミ処理システム「トラッシュ」の全国規模での販売を目指しているが、ゴミ処理施設のない離島からの引き合いも多いなど注目されている。処理施設のない離島では通常、収集したゴミを本土まで輸送して処理

しているため、コストがかさんで行政費用を圧迫しているのが現状だ。同社は「生ゴミは土に戻す」という考えとメンテナンスの簡便さが注目され、現在、テスト的に沖縄県西表島に3台設置されている。今後とも継続的に離島を抱える自治体に向けて積極的にPRしていく(松本俊実取材)



役顧問)という。同機(写真)は本体を土中に埋め、分別した生ゴミ

を投入するだけの「ゴミ箱感覚」で使用が可能。バイオの分解脱臭作用で悪臭・不快害虫の発生を防止し、二次公害の心配もない。専用の分解促進剤と土中温度の安定が生ゴミの分解発酵を促進し、処理後にはコン

ポスト化が可能だ。機械式とは異なり故障がなく、特殊配合プラスチック材の使用で高い耐久性を誇り、無

駄な光熱費を削減できる。1日の処理能力は30〜80kgで、マイナス20度C以下の寒冷地でも浄化・分解効果に変化はほとんどない。設置工事は1日で済み、約1坪のスペースがあればどこでも使用できる。

の再資源化や循環型社会構築の観点からみて、生ゴミ処理機の社会的意義は大きい。「ユーザーのニーズに合わせて提案を行っているが、まずは製品の認知度を広めたいのでリースでの展開も視野に入れている」(同)という。同社は随時販売代理店を募集しているが、詳細は同社まで。

〔仕様〕▽サイズ(土中部分) Ⅱ高さ2600mm×幅1700mm▽本体価格Ⅱ150万円から▽設置費Ⅱ20万円▽ランニングコストⅡ毎月4000円